



# MUROTO

## 平成24年度 事業報告



独立行政法人 国立青少年教育振興機構

国立室戸青少年自然の家



# 巻 頭 言

独立行政法人国立青少年教育振興機構  
国立室戸青少年自然の家  
所 長 森 園 忠 勝

平成24年度の事業報告をまとめました。是非とも御一読いただき、御意見や御助言を賜りましたら幸甚です。

平成24年度は、前年度を上回る利用をいただき、2年連続で宿泊室の年間稼働率52%超は開設以来初のことでした。これも地域の皆様にお支えいただいた結果の数値であると、感謝申し上げます。皆様に愛される施設づくりに向けた取組みを引き続き行ってまいります。

国立青少年教育振興機構は「体験の風をおこそう」運動を全国で展開しています。子どもの頃の様々な体験活動（自然体験・友達と遊んだ体験・生き物を飼育した体験など）が多い人ほど、人間関係能力や自尊感情、規範性などが高いということが調査で明らかになったことをふまえての運動です。国立室戸青少年自然の家でも、利用者みなさんに体験活動の重要性を積極的にお伝えしています。子どもたちが、自然の家での豊かな自然体験や仲間との協力体験などを通じて、将来の豊かな社会の担い手に成長してくれることを強く望んでいます。

国立室戸青少年自然の家は、「安全・安心」を確保しつつ、新たなチャレンジを続けてまいります。変わらぬ御支援をいただけますよう、お願いいたします。

# 平成24年度を振り返って

次長 樋口 隆徳

平成23年度は目標であった宿泊室稼働率50%を、文部科学省、機構本部、高知県、室戸市、そして地域の方々の御協力で何とか達成することができた。（平成23年度宿泊室稼働率…52.3%）

平成24年度は、当初から戦略プラン「船中八策」を策定し、稼働率50%維持を最優先課題として取り組んできた。

広報活動においては、県東部地区の首長部局や教育委員会を回り、安芸地区の小学5年生の利用100%を達成することができた。また、県立高等学校校長会、公立小中学校校長会での広報により、新たな利用につなげることができた。さらに、平成23年3月に広報に出向いた香川県の私立高等学校も、本年度新たに利用してくれた。

大学への広報については、県内の3つの大学を中心に昨年度後半にサークル説明会での広報や学生担当課へのお願いを行ってきた。

また、年度当初の四国内の大学へのリーフレットの配布や学務課への広報を行い、愛媛大学や徳島大学のサークルの新たな利用にもつながった。

さらに、本年度はジオパーク全国大会が室戸市で開催されたこともあり、四国外の大学の地質研究室やサークルの利用もあった。

研修支援事業では、特に本年度も高知県教育委員会人権教育課の補助金により実施されている「中1仲間づくり合宿」で20校以上の利用があり、本年度は高知県東部地区の中学校の新たな利用も見られ、仲間づくりプログラムも浸透してきている。

特に本年度は高知県観光政策課、観光コンベンション協会の御支援により、1月に韓国中学生野球チームの長期合宿が行われ、1月の宿泊利用者数を昨年度以上に伸ばすことができた。

さらに2月には、企業による長期外国人日本語語学研修も行っていただき、閑散期の宿泊室稼働率対策につなげることができた。

教育事業においては、ジオパークを生かした県立青少年センターとの共催事業を2事業に増やし、諸事情で中止となった中学野球大会に代わり、キッズデイを3回行うこととした。

また、本年度は高知県自然学校連絡会の事務局を当施設が受け持つことになり、これに伴う県からの委託事業を行ってきた。これは施設にとって、県内の様々な組織とのネットワークを広げる手立てとなった。

本年度はこういった新たな取り組みや事業によって、開所以来の2年連続宿泊室稼働率50%超を達成することができた。

しかし、全国的な児童・生徒数の減少や学習指導要領の改訂による教科の事業時数の増加等、施設に対する逆風は続いている。

現状に安心することなく、新たな利用者獲得のための努力を続けるとともに、利用者の満足度を上げるための取り組みや、教育効果が図られる事業の計画、地域のナショナルセンターとしての役割を果たすためのプログラムの開発を行い、地域に根ざし信頼される施設を目指し、今後も努力を続けたい。

最後に、本年度も御協力いただいた高知県教育委員会、室戸市及び室戸市教育委員会をはじめ、関係団体の皆様に心よりお礼を申し上げます。

# 平成24年度 事業報告

## 調査研究事業

- スクールウォーターワイズ

## 教育事業

- 日本列島ともだちの輪
- ジオパーク探検隊
- ジオ化石博士になろう
- ボランティア養成講座
- 教員免許状更新講習
- ふれあい通学合宿

## 委託事業

- 自然体験活動指導者養成研修

## 子どもゆめ基金体験の風リレーションシップ事業

- 子ども体験遊びリンピック
- 室戸くろしお祭り
- キッズデイ①～③
- 卓球大会（小学生）
- むろと2000本桜祭り

## その他事業

- 中四国青少年教育施設職員研修会
- 高知県青少年教育施設連絡協議会指導者研修会
- 四国交流三四郎のつどい
- 野球
- バレーボール
- 卓球



# 調査研究事業

## 事業名 趣旨

### スクールウォーターワイズⅡ

海の自然体験活動の教育的効果を継続して検証し、学校教育活動への普及効果を図ると同時に「日本版スクールウォーターワイズ」での実績や調査研究成果をもとに、小学生を対象とした海の総合的学習プログラムを実施する。また、これまでの海の自然体験活動が、その後どのような影響を与えているか調査を行い、その教育効果を検証する。

## 対象 調査対象校

小学校5年生

いの町立枝川小学校 59名、松山市立堀江小学校 117名、  
松山市立余土小学校 130名

## 活動プログラム

(余土小学校の例)

	10月2日(火)	10月3日(水)	10月4日(木)	10月5日(金)
AM	移動	カヤック スノーケリング 磯観察 ミニクルージング	フィールド フォトビンゴ	アンケート 退所式
PM	入所式 オリエンテーション	カヤック スノーケリング 磯観察 ミニクルージング	カヤック スノーケリング 磯観察 ミニクルージング	移動
夜	環境講話 「室戸の海の 生き物たち」	マグロのかぶと 焼き	キャンドル ファイア	

## 運営の留意点

教育的効果を検証するため「ウォーターワイズ効果測定尺度」のアンケートを事前・事後・1カ月後に実施した。また、職員が学校を訪問し、室戸青少年自然の家の施設紹介やプールでスノーケリングの出前授業を行うなど、児童がスムーズに宿泊学習に参加できるよう支援を行った。

## 事業の成果

調査した5つの項目「向社会的行動」「海洋環境・文化の保全意識」「創造力」「海への関心」「海洋環境に対する認知」のうち、「海洋環境・文化の保全意識」、「海洋環境に対する認知」、そして「総合計」において、事前から事後にかけて、平均値の差が有意に向上した。特に「海洋環境に対する認知」に関しては、事前から1ヶ月後にかけても有意に向上した。

## 事業の課題

防災やジオパークなどの視点を取り入れたり、参加校のニーズを取り入れたりしながら、新しい海の活動プログラムの開発が必要である。また、一部の学校では、悪天候により通常の活動が制限されるなど、学習の効果が十分に発揮できないケースもあった。今後は、天候による活動場所の変更があった場合でも、実施可能な効果的な指導方法の工夫を模索していきたい。



## 今後の方向性

次年度は、「スクールウォーターワイズⅢ」として、海や防災に関わる有識者を招き、新規プログラム開発協議会（仮称）を立ち上げる。新規プログラムについては、平成26年度から実施予定である。



## 参加者の感想

わたしが自然の家に行って、成長したなと思うことが2つあります。1つ目は、友達と協力することです。室戸の活動では、カヤック、スノーケリング、磯観察と、バディの人と活動して、いっしょに魚を見たり、観察したりして、バディの人と協力することができたのでよかったです。2つ目は、静かに行動すると言う事です。学校では移動の時にしゃべってしまうことが多かったけど、室戸では、班行動の時や、静かにする時は静かにすることができたのでよかったです。室戸で、いろんな活動をして、いろんな事を学びました。室戸で学んだことを生かして、学校で過ごしていきたいです。

自然の家で、わたしが成長したと思ったことは2つあります。岬探勝で岬の灯台まで登る時、一人だったり、みんながいなかったりしたら、最後まで登りきれなかったと思います。でも、みんながいたから「だいじょうぶ？」と話しかけてくれたし、みんなもがんばっていたので、わたしもがんばれました。これが1つ目です。2つ目は、カヤックでバディと協力したことです。最初はまったくバディと息が合わなくて、なかなか進まず違う方向に行ってしまう時もありました。でも、慣れてくるとバディと息があってきてすごく進みました。協力することの大切さを改めて感じました。自然の家はとても楽しかったので、また家族で行ってみたいです。

わたしは、海の活動を通して、海は楽しくてすごいけど、本当は怖いところもあるんだなと思いました。カヤックはバディと協力しあって、息を合わせて活動しました。そのため、友達との仲が深まりました。人がゴミを海に捨てて海がきたなくなり、魚たちに被害があることが分かったので、どこにでもゴミを捨てないようにしたいです。岬探勝では、山に登って疲れたけど、着いたらとてもきれいな景色も見られたし、大きな灯台も見られたので良かったです。室戸青少年自然の家みなさんに感謝したいと思います。



# 教育事業

## 事業名

日本列島ともだちの輪 ①夏編・②冬編

## 趣旨

異なる地域の子どもたちがお互いに交流し、ともだちの輪を広げ、自然環境や文化、生活様式の違いを体験することで、郷土の良さを認識するとともに、他者を尊重する気持ちを育むことをねらいとする。

## 対象

高知県内に住む小学5年生から中学2年生までの児童・生徒と、組合立丹波少年自然の家の募集に賛同した近畿地域の小学5年生から中学2年生までの児童・生徒

## 実施期間

①夏編 平成24年8月10日(金)～8月13日(日)3泊4日

②冬編 平成24年12月26日(木)～12月28日(土)2泊3日

## 参加者/定員

①夏編 60名/60名 ②冬編 57名/60名

## 活動プログラム

	8月10日(金)	8月11日(土)	8月12日(日)	8月13日(月)
AM		海浜活動 カヤック・スノーケリング (海の話・見学)	高知市内班別行動	閉講式 退所
PM	開講式 アイスブレイキング	海浜活動 カヤック・スノーケリング (施設内オリエンタリング)	高知市内班別行動	
夜	グループミーティング	グループミーティング	お別れパーティー	

	12月26日(水)	12月27日(木)	12月28日(金)
AM	高知市発	スキー体験	丹波焼体験
PM	再会のつどい 餅つき体験	スキー体験	丹波市発 高知市着
夜	交流会	お別れパーティー	

## 運営の留意点

本事業は遠隔地との交流であるため、丹波少年自然の家との事前の相談と連携が欠かせない。班編成や健康・安全対策などの情報交換を密に行う必要がある。事業期間中は、毎晩、両施設の職員とボランティアリーダーによるミーティングを行い、次の日の活動内容の確認と併せて、参加者の体調やグループ内の人間関係の様子等についても情報交換を行い、共通理解を図った。また、本事業はボランティアリーダーが担う役割も大きい。事業で子どもたちに適切な活動の補助ができるよう、事前に夏編ではスノーケリングやカヤック、冬編ではスキーの練習を行った。さらに、事業に向けてボランティア同士の会合をもち、活動のための冊子作りやボランティアとしての心構えを話し合った。

## 事業の成果

今回で7回目となり、プログラムは安定して実施できるようになった。当施設でも、県外との交流という広域性を持つプログラムは本事業しかなく、夏編、



冬編と長期にわたり実施することも魅力の一つだと考える。夏編では、室戸の海の活動と、高知市内をグループで巡る高知市内探索を中心にプログラムを作っている。あいにくの荒天で、海の活動（オーシャンカヤック・スノーケリング）が実施できなかったが、雨天プログラムとして、海の生物についての話とジオパークをバスで巡る見学を実施。午後は、施設内オリエンテーリングにフォトビンゴを組み合わせ、グループで屋内を探検する活動を行った。海の活動を楽しみにしていた参加者が多かったが、海の話もしっかり聞いており、バスからのジオパーク見学も、高い波に驚きながら楽しんでくれたようである。施設に戻って行ったオリエンテーリングは、グループでの協力を自然に行うことで、結束がより深まる結果につながった。そして、自分たちがルートを決めて行った高知市内探索は、グループ活動の難しさや楽しさを存分に味わいながら高知の夏を感じることができた。

冬編では、兵庫県の丹波市を訪れ、丹波地方の冬を体験することができた。グループは夏編と同じグループにすることで、素早く友だちに馴染み、活動することができた。

離れた地域の友達と交流することは、お互いにとって刺激的であり、相手の地域の良さを知ることとともに、自分の地域の良さを改めて考えることにもつながった。

## 事業の課題

長期継続事業になってきたことで、プログラムのマンネリ化が感じられてきた。それぞれの地域の特色を示すものとして、高知の海の活動とよさこい祭り、丹波のスキー体験と丹波焼といった活動が定着してきている。今後は、ジオパークをテーマにするなど、プログラムの精選、変化を図る必要がある。また、グループ活動に力を入れ、交流という点に力を入れることも必要である。せっかく広域的に活動し、双方の連携が取れてきているので、プログラムの開発等を通して、さらに良いものにしていきたい。

## 今後の方向性

プログラムの一つの流れが出来上がっているように思える。しかし、さらに地域の特性を生かす取組を考える必要がある。例えば、夏編では室戸ジオパークを生かした見学や体験学習など、室戸ならではの活動を提案していきたい。また、冬編はスキー体験を中心とした活動など、丹波ならではの内容を開拓していくようにしたい。





## 参加者の感想

楽しかった日本列島ともだちの輪（夏編）  
私は最初、高知の子たちと仲よくなれるかとても不安でした。でも、高知の人たちは優しく声をかけてくれてうれしかったです。楽しみにしていた海の活動は、天気が悪く残念でしたが、室内オリエンテーリングがとても楽しかったです。高知市内探索では、龍馬記念館を見て、よさこい祭りを見ました。おどっている人がかっこよかったです。

（小学6年生 女子）

久しぶりに会った丹波の人たちともすぐに仲良くできたのが心に残っています。もちつきやスキー体験の時に、一緒に活動しているという実感がわいてきました。夏よりも多くの友達ができましたが、2泊3日ではすごく少なく感じられました。来年もまた来たいと思いました。

（中学1年生 男子）

## 事業名

### ジオパーク探検隊 ～地球の息吹を聞こう～

## 趣旨

海に面した室戸の様々な自然の様子に触れる中で、世界ジオパークに認定された室戸岬周辺の地形及び海岸周辺の自然を観察するとともに、大地の成り立ちを知り、自然と人間との関わりを知ることをねらいとする。

## 対象

小学4年生以上

## 実施期間

平成24年10月27日（土）～平成24年10月28日（日）1泊2日

## 参加者／定員

24名／30名

## 活動プログラム

	10月27日（土）	10月28日（日）
AM	開講式 アイスブレイキング	ジオパーク実験 ① 3Dめがねづくり ② 隆起の仕組みを探ろう
PM	ジオパーク探検 野外炊事（ジオカレー）	閉講式

## 運営の留意点

室戸市ジオパーク推進協議会事務局と高知県立青少年センターとの共同開催で実施した。三者の連絡・調整を緊密に行った。また、事前に担当ボランティアリーダーの研修を行い、ジオパークについて学んだり現地調査を行ったりしたため、参加者の子どもたちに説明ができるなど、事業の運営をスムーズに行うことができた。

## 事業の成果

昨年度行った本事業は大変好評であったため、今年度はジオパーク関連事業を一つ増やし、二つの事業行うことにした。本事業はその一つ目である。天候に左右された昨年度の事業の反省を生かしながら、今年度は現地探検を生かした実験を取り入れることができた。運営面では、県立の施設や地元の推進協議会と共同開催することで役割分担がなされ、事務手続きの軽減が図れた。当施設で宿泊を行い、所有バスを運行するなど、それぞれの強みが生かせることができた。さらに、当日の対応にあたる職員の数が多く、安心して活動に取り組むことができた。



## 事業の課題

今年度は本事業への参加申込が少なく、もう一方のジオパーク事業「ジオ化石博士になろう」に希望者が流れた形になった。プログラムの内容や広報の時期や方法などを再検討する必要がある。

## 今後の方向性

次年度についても、ジオパーク関連事業は二つ実施する。内容面では、地質だけにとどまらず、食べ物や歴史・文化（祭り）、防災など、多角的にとらえたプログラムを開発し、世界ジオパークに認定された室戸の魅力伝えていきたい。



## 参加者の感想

ジオパークに来て、学校の理科では習わないことが分かってよかったです。これからも、このような事業があったら参加したいです。  
3Dメガネを作って、日本の海底の様子がよく分かりました。

はじめは、あまり班のみんなとなじめなかったけど、ジオカレーづくりの時に、みんなと協力して作って、仲良くなりました。じゃがいもやニンジンといった野菜をスプーンでむくのがすごくたいへんでした。けれど、とても楽しかったです。ジオカレーもとても美味しかったです。

## 事業名 趣旨

### ジオ化石博士になろう

室戸ジオパークという貴重な地質遺産や、県東部にある化石群の発掘を通して、大地の成り立ちを知り、自然と人間との関わりを食生活や産業、歴史などの観点から理解することをねらいとする。

## 対象 実施期間 参加者／定員 活動プログラム

小学4年生から6年生までの児童

平成24年11月23日（金）～平成24年11月25日（日） 2泊3日

34名／30名

	11月23日（金）	11月24日（土）	11月25日（日）
AM	11:00 室戸市海の駅「とろむ」着 開講式、昼食	9:00 自然の家 発 9:40 化石採集(安田町) 11:20 伊尾木洞見学	9:00 化石クリーニング 名前調べ、標本作り
PM	12:30 ジオパーク化石見学 16:00 自然の家へ移動 オリエンテーション	15:00 青少年センター着 化石の話 16:00 野外炊事	13:30 認定式・閉講式 14:30 解散 青少年センター発
夜	19:00 化石夜話		



## 運営の留意点

高知県立青少年センター、室戸ジオパーク推進協議会と共同開催することで、より広範囲に事業を展開でき、深い知識を得る活動につなげることができると考える。そこで、事前に青少年センター・ジオパーク推進協議会と連携を密にし、具体的な活動プログラムを作成することが大切である。宿泊場所を移動することもあり、それぞれの場所について危険箇所の把握など、安全面に関する共通認識を持つ必要がある。

## 事業の成果

本事業は、県立青少年センター、室戸ジオパーク推進協議会と共同開催したことで、高知県東部一帯の広範囲にわたって活動することができ、地質専門員の協力を得たことで、詳しい内容をわかりやすく参加者に提供することができたと思う。参加者は、個人差があるもののジオパークや化石に対して高い関心を持っており、専門的な知識を求める参加者にも対応することができた。各機関と共同で活動案を作成したことで、広範囲を移動しながらも、それぞれの担当が明確にされているため、各活動は十分に機能した。参加者は、いくつものポイントの見学や活動体験をすることができ、理解が深まったようだ。

## 事業の課題

県立青少年センター、室戸ジオパーク推進協議会との共同開催ということで、チラシの配布時期や打ち合わせの時間の確保などの課題について、十分に意思の疎通を図らねばならない。

伊尾木洞の見学や、夜の野外炊事が寒かったという意見があり、実施する時期を考慮したプログラムを検討する必要がある。また、解散時の保護者引渡しを確実にするため、保護者への連絡を確実にする手立てが必要である。

## 今後の方向性

世界認定を受けて注目を浴びるようになった室戸ジオパークと、県東部の化石の名所である唐浜を舞台に行う事業は、参加希望者が多い。今後についても、複数回参加している参加者にも満足していただきながら、新規参加者にも楽しめるような企画プログラムにしていきたい。



## 参加者の感想

化石を掘れて嬉しかった。もう少し化石を掘るところを多くして欲しい。  
ジオパークの見学が楽しかった。実験もおもしろかった。  
(小学5年男子)

いろいろな体験ができてよかった。  
講師の先生の説明がわかりやすかった。  
中学生になっても参加できるようにして欲しい。  
(小学6年男子)



事業名  
趣旨

ボランティア養成講座「室戸 in ワンダーランド ～大冒険の主演は君だ～」  
本事業は、当施設の法人ボランティアたちによる、自然体験活動に関する教育事業である。企画・立案・運営などのほとんどを、法人ボランティアが主体的に行う。

この事業を総合的に体験することによって、自分たちで企画して事業を行う際に必要となるスキルや、子どもたちへの指導力の向上を図ることができる。さらには、当施設でのボランティア活動に必要な総合的な資質を向上させることが期待される。

「自然の中での班活動を通して積極的に友達と関わることで、互いに自分のアイデアを出しながら、みんなで協力し、協力の大切さを学ぶこと」をねらいとし、活動プログラムの立案やチラシの作成などを法人ボランティアたちが行った。

対象  
実施期間  
参加者／定員  
活動プログラム

高知県内の小学校 4～6 年生

平成 25 年 1 月 26 日～27 日

33 人／42 人

1 月 26 日 (土)		1 月 27 日 (日)	
11:45	自然の家バス 到着・受付	6:30	起床・洗面・清掃・体調チェック
12:15	昼食 (食堂)	7:30	朝のつどい・朝食
13:30	開会式・アイスブレイキング	8:30	退所点検
15:00	つどえ！仲間たち！～地図を見つけ出せ～ タベのつどい・夕食	9:00	最後の試練 ～秘宝はすぐそこに～
17:00	暗闇への挑戦	11:30	アンケート記入
18:30	入浴	12:00	昼食 (食堂)
20:00	班会議・就寝準備・体調チェック	12:50	閉会式・集合写真
21:00	就寝	13:00	自然の家バス 出発

活動内容

①アイスブレイキング

子どもたちは、スタッフ紹介や「大冒険」の概要などの説明を受けた後、全員で「なかまづくり」のレクリエーションを行って、お互いの緊張を解いた。

②つどえ！仲間たち！ ～地図を見つけ出せ～

子どもたちは、地図と手がかりをもとに冒険を開始した。班の協力が必要な課題に対し、作戦会議をしたり、謎解きの相談をしたりして関門に挑んだ。

③暗闇への挑戦

夜の部では、班のチームワークが試される課題に挑んだ。「勇気の証」を手に入れるために、みんなで頑張った。全ての班が課題をクリアして全員で真っ暗な部屋に入ると、イルミネーションが輝く演出に歓声があがった。

④最後の試練～秘宝はすぐそこに～

子どもたちは山賊を捕まえるゲームに臨んだ。ここでも全員の協力が求められた。子どもたちはチームワークを発揮し、楽しい時間を過ごすことができた。

その後、キャンドルファイアが行われた。落ち着いた雰囲気の中で、これま



での友達との関わりについて振り返りながら、「宝」の貝飾りを受け取った。

#### ⑤伝記づくり

思い出として残したり家族に伝えたりするために、画用紙に気に入った「冒険」の写真を貼りながら「伝記づくり」を行った。友だちと活動している写真を選択し、班のメンバーの名前を書いている子も多かった。また、メッセージを交換している班もあり、友達を意識した活動をしていた様子が見て取れた。

### 事業の成果

事業後のアンケートでは、高い満足度の結果が得られ、事業目的は達成された。プログラムに対しては、子どもたちから100%の満足度の回答が寄せられた。

子どもたちの実態把握から組み立てていくという高いハードルに悩みつつも、法人ボランティアたちがじっくり「ねらい」を決めることから話し合いを重ね、細部まで工夫を凝らしたことが、子どもたちの満足度に繋がったと考えられる。また、子ども一人一人に細かく配慮し、目が行き届くように努力していた。

法人ボランティアたちにとって、本事業は貴重な研修の場となった。人材育成の面から考えても、本事業の重要性は一層大きくなるものと思われる。

### 今後の方向性

法人ボランティアたちのアンケート結果に、当日の運営に改善の必要があるとの指摘があった。見通しを持って準備ができるように、効果的な法人ボランティアのトレーニングのあり方について再検討する余地がある。また、職員の法人ボランティアに対する支援のあり方についても今後検討していく必要がある。



### 参加者の感想

私は「室戸 in ワンダーランド」を通して、いろいろなことを学びました。

一つ目は、班で協力することです。山の中での活動は、協力していなければ地図は見つかっていなかったと思います。二つ目は、友だちをつくることです。友だちをつくることで楽しさが倍になったと思います。

私が一番楽しかったのは、「番人の間」です。こわかった時もあるけど、すごく楽しかったです。勇気のあかしが手に入ったときは、すごくうれしかったです。リーダーや職員のみなさん。本当にありがとうございました。また、来たいです。  
(参加児童)

4か月、走ってきました。考えたプログラムが良なくて、リートレに行く度に駄目出しされて投げ出したくなった日もありました。でも、それを支えてくれる仲間や職員さんのおかげで（子どもたちの喜ぶ様子を想像することで）成功した今日があるのだと思います。ありがとうございました。  
(法人ボランティア)



**事業名**  
**趣 旨**

**教員免許状更新講習（学級指導・学級経営に生かす自然体験活動①②）**

教員が体験活動の意義について理解するとともに、児童・生徒の集団宿泊活動を効果的に実施するための基本的な体験活動指導技術を身に付ける。また、学習指導要領における体験活動の取り扱いを理解し、教育課程の編成や教育活動に取り入れる方法を講義や実習を通して習得する。

**対 象**

平成 26 年 3 月 31 日及び平成 27 年 3 月 31 日に修了確認期限を迎える小・中学校教諭①・②ともに 30 名

**実施期間**

①平成 25 年 2 月 16 日（土）選択領域 6 時間分

②平成 25 年 2 月 17 日（日）選択領域 6 時間分

**参加者／定員**

①35 名／30 名      ②33 名／30 名

**活動プログラム**

学級指導・学級経営に生かす自然体験活動①

	内 容	講 師
午前	開会行事、オリエンテーション	国立室戸青少年自然の家 企画指導専門職 他
	野外炊事（ジオカレー） 事前・事後指導、薪割り・火起こし体験、 災害救助用炊飯袋での炊飯を含む。	
午後	講義「体験活動の意義と学習指導要領」	高知県教育委員会事務局 小中学校課 指導主事 須内 康雄
	履修認定試験	
	閉会行事	

学級指導・学級経営に生かす自然体験活動②

	内 容	講 師
午前	開会行事、オリエンテーション	国立室戸青少年自然の家 企画指導専門職 他
	講義「安全管理」	
午後	ジオパークを生かした自然体験活動の指導法	国立室戸青少年自然の家 企画指導専門職 他
	履修認定試験	
	閉会行事	

**運営の留意点**

高知県教育委員会事務局より講師を招き「体験活動の意義と学習指導要領」と題して講義を行った。また、事前に行った課題意識調査から「南海地震に備えた野外炊事を行ってほしい」という要望があったことから、薪割りや火起こし体験の他、災害時に活用できる「災害救助用炊飯袋」を用いて炊飯を行うなど、受講者の要望を取り入れた講習を行った。

**事業の成果**

今回の講習では、年度末の多忙な時期の日程にもかかわらず、多くの受講の希望があり、申込み受付日には、1 時間程度で定員に達した。キャンセル分を考慮し、定員を超えて受け付けを行ったが、何名かの方にはお断りをしなければならない状況であった。好評であった要因には、前年の 8 月（夏休み中）から、高知県教育委員会をはじめ、受講対象者に対して地道に広報活動を続けていった点や、宿



泊を必須とせず1日6単位時間の講習2回のうちいずれか1日だけでも受講してもよいという弾力的な受け入れ体制をとった点が挙げられる。また、アンケートの結果を見ると昨年度の受講者から聞いて受講したという方が多く、講習の内容に肯定的な期待感を持った方が多くいたことが分かる。

### 事業の課題

受講者からは、時間の余裕のある夏休み中の開講を望む声があるが、当施設の利用状況から考えると繁忙期の開講は難しい。また、本年度は天候に恵まれ比較的穏やかな日に実施できたが、冬期の開催であり、気候によっては実施できないプログラムも含まれていた。荒天時のプログラムについては、再検討の余地がある。また、受講対象者であるが、当施設では主に小・中学校の教諭を対象としていたが、今年度は幼稚園教諭や保育士も含まれていた。講習の内容を考慮すると、対象者を小・中・高等学校の教諭に絞ることも考えられる。いずれにせよ、今後も充実した講習になるように運営の改善、講習内容の検討を行っていきたい。

### 今後の方向性

受講後の「免許状更新講習受講者評価書」の講習内容についての評価を見ると、講習①では「十分満足した」が82.9%、「満足した」が17.1%、「あまり十分でない」及び「十分でない」が0%、講習②では「十分満足した」が87.9%、「満足した」が12.1%、「あまり十分でない」及び「十分でない」が0%であった。講習内容についての満足度はかなり高い評価を得ることができた。今後も、参加者のニーズを踏まえながら、当施設の閑散期を中心に実施していきたい。



### 事業名 趣旨

#### ふれあい通学合宿

自然の家で1週間生活を共にすることで、正しい生活習慣を身につける。複数の小学校の児童が活動を共にすることにより、地域を越えた交流を図る。

### 対象

室戸市内に住む小学4年生から6年生までの児童

### 実施期間

平成25年2月24日(日)～平成25年3月1日(金) 5泊6日

### 参加者/定員

41名/40名

### 活動プログラム

	2月24日(日)	2月25日(月)	2月26日(火)	2月27日(水)	2月28日(木)	3月1日(金)
AM		起床・洗面 6:50 朝食 7:15 登校	起床・洗面 朝食・登校	起床・洗面 朝食・登校	起床・洗面 朝食・登校	起床・洗面 朝食・登校
PM	14:00 入所	学校	学校	学校	学校	学校・帰宅
夜	野外炊事 (カレー)	17:00 タベのつどい 17:15 夕食 18:30 宿題 19:30 クラフト	タベのつどい 夕食・宿題 星座観察	タベのつどい 夕食・宿題 暗闇探検	タベのつどい 夕食・宿題 キャンドルファイア	
	入浴・就寝	20:30 入浴 22:00 就寝	入浴・就寝	入浴・就寝	入浴・就寝	



## 運営の留意点

5泊6日という長期のプログラムであるため、体調管理、バスの乗降時の交通事故防止、活動時の怪我の防止等、安全面への配慮を最優先に考えた。また、基本的な生活習慣を身につけることを目指しているため、毎日の生活リズムをきちんと守ることを意識した。活動の補助に大学生のボランティアリーダーが参加しており、彼らの体調面にも配慮した。

## 事業の成果

定員を超える希望者があり、人数調整をしてスタートした。この「ふれあい通学合宿」も継続して実施していることで、リピーターの児童も複数参加していた。開講式の時点では不安な表情の児童が多かったが、アイスブレイキング、野外炊事と活動を進めるにつれ、他校の児童ともすぐに仲良くなっていった。今回の事業では、「規則正しい生活習慣を身につける」ことを前面に打ち出し、時間を守って生活することを意識させるようにした。初日こそなかなか眠れなかった児童がいたが、2日目以降は、通常の学校生活が送れるようにしっかりと睡眠をとるようになった。また、宿題タイムでは、多くの大学生リーダーが指導に当たることで、児童が理解できてなかった内容を理解する一助になった。宿題のあとには自然の家ならではの活動も取り入れ、職員・リーダーや、他校の児童との交流を深めた。

## 事業の課題

児童がこれまでに経験のない5泊6日という長期の宿泊体験であるため、児童は心身へのストレスが起こったようだ。事業を進める中で、毎日の児童の様子をスタッフ間で情報交換し、共通認識を持つようにしていたが、さらに保護者や学校の先生とも連携を深めて対応できるようにしたい。学校・学年によって宿題に必要な時間も異なり、より細かく対応できるような指導体制が必要である。習い事や部活動等で夕方に集まるのがバラバラになる日があるため、迎えの時間の確認や夕食の対応等により細かな対応が必要である。

## 今後の方向性

参加希望者が多く、また、再参加を希望する参加者が多い。長期にわたることから、家庭や学校、室戸市教育委員会等との連携を密にとり、安全に運営することが必要である。規則正しい生活を送ることで、生活に対する考え方をしっかりと持たせるとともに、同じ室戸市内でも普段関わることがほとんどない子どもたちが自然と交流を深めていけるように、プログラムを改良していきたい。



## 参加者の感想

楽しかったし親のありがたみがわかりました。また、家でのマナーの守り方が良くなっていました。食事がおいしく、職員さん、リーダーさんの対応の仕方がとても良かったです。

ほかの地域の人と交流ができて仲良くなったし、名前も覚えられたので良かったです。  
友達がたくさんできるいい機会だと思いました。来年も来たいです。



# 委託事業

## 事業名 趣旨

### 自然体験活動指導者養成研修①②

小学校の長期自然体験活動に対して、事前の計画に対する助言や、活動時の全体の掌握、及び事後の評価に対する助言を行う全体指導者の育成を目的とする。

また、本研修の第1回は当機構の法人ボランティアリーダー及び高知県立青少年センターのボランティア育成を兼ね、両施設のボランティアリーダーとして必要な知識や技術の修得を目指す。国立室戸青少年自然の家では、本研修（第1回、第2回）及びリーダートレーニングでの成果をいかし、1月に「ボランティア養成講座」として、自主企画事業を計画・実施する。

また、第1～2回を通して当施設の特徴であるカヤックやスノーケリング等「海の活動」への理解を深め、安全に自然体験活動を行う上で必要な知識や技能を身につける。

## 対象

青少年教育関係者、学校教育関係者、その他自然体験活動に興味・関心のある18歳以上の方で、小学校長期自然体験活動の全体指導者として、活動・協力する意思のある方。

当施設で法人ボランティアとして活動する意思のある方、及び高知県立青少年センターのボランティアとして主催事業に関わり活動したい方。

## 実施期間

①平成24年6月23日（土）～6月24日（日） 1泊2日

②平成24年9月21日（金）～9月23日（日） 2泊3日

## 参加者／定員 活動プログラム

①37名／70名 第2回 30名／30名

### 第1回

	6月23日（土）	6月24日（日）
午前	開講式、スノーケリングの指導法	ボランティア活動の意義 等
午後	水難救助法、救命救急法	閉講式
夜	青少年教育施設の現状と運営	

### 第2回

	9月21日（金）	9月22日（土）	9月23日（日）
午前	開講式	安全管理、プログラムの企画立案	体験活動の指導法
午後	オーシャンカヤックの指導法	プログラムの企画立案	体験活動の指導法、 閉講式
夜	学校教育における体験活動の意義 教育課程と体験活動の関連性		



## 事業の成果

本研修により、全体指導者 24 名を養成することができた。

第 1 回は、海浜でのスノーケリング及び水難救助法の講習を行った。講師はプロダイバーであり、海の生物に対する知識が豊富で、安全なスノーケリング技術を指導していただくとともに海の生物も紹介していただき、海への関心を高めることができた。救命救急法の演習は、潜水士の方々の豊富な経験をもとにした指導が大変理解しやすく、受講者の自ら進んで取り組む姿が見られた。

第 2 回は天候にも恵まれ、当施設の人気プログラムの一つである「オーシャンカヤック」の指導法についての実習を行い、当施設が提供している活動についての理解を深めた。また、指導者の視点に立って安全に野外活動を実施するにはどのような点に配慮する必要があるかを考え、その心構えと対処方法を学んだ。また、場所を高知県心の教育センターに移しての体験学習活動の演習は、今回の受講者のほとんどが教員を目指す大学生であり、このような体験活動についての学習を経験したことがなかったため大変好評であり、受講者たちの体験活動への関心と意欲を高めることができた。

## 事業の課題

研修を 2 回にしたため、第 2 回研修が 2 泊 3 日となり、実技を多く伴う研修はかなり日程的にも体力的にも厳しくなった。そのため、受講者の利便を考え、参加しやすい日程を検討していく必要がある。また、受講者が増加している分、参加者個々のニーズに応じたきめ細かい対応を引き続き心がけていくことが今後大切であると思われる。

本研修の受講者の多くは大学生である。特に第 2 回においてはほとんどが教員志望の学生であり、将来自分が児童・生徒を指導していく上で当施設で体験したことを生かしたいと考えている。そうした期待に応えるためにも、教育事業に参画し、指導者としての経験を積んでいくことができるようにする工夫も必要である。また、現状では学校等での自然体験活動指導者が活躍する場がほとんど無い状況である。そのため、機会を捉えて「小学校長期自然体験活動」の意義を広報していくことも必要であると思われる。

本年度も本研修実施に当たっては関係機関からも大きな支援が得られた。特に第 1 回の「水難救助法」「救命救急法」については、高知海上保安部の潜水士による実技指導を受けることができた。第 2 回においては、高知県心の教育センターより、チーフ・指導主事の講師派遣を受け、構成的グループエンカウンターについての講義、高知県教育センター分館体育館内のロープコースを利用して体験活動の指導法を学習することができた。当施設を支援してくださる関係機関との連携を今後とも大切にしていきたい。

また、昨年度に続き、県立青少年教育施設と連携してボランティアの養成に取り組んだ。研修後に数名の参加者が県立青少年の家の事業に参加し、研修の成果を生かすことができた。このようにボランティアが両施設を行き来することで活動の場が広がったり、それぞれの施設の長所を学んだりすることがスキルアップに繋がることも期待できる。互いの施設からアイデアを出し合い、今後ともよりよいボランティア養成ができるよう、連携を深めていくことが重要である。





## 参加者の感想

今回この場で出会えた人たちとこれからどのように相互作用していくかが大事であると感じた。また一歩踏み出す勇気を念頭に置いて生活していく。

最初は室戸という言葉にとっても興味がわいて参加したいと思いました。自分は他県から来ていたので、今回いろいろな体験ができてよかったと思いました。ありがとうございました。楽しかったです。

指動という立場から今回は学ばせていただきました。海をメインに前回と今回を行ったのですが、山の部分でも少し学べたらよかったかなと思いました。しかしとてもよかったです。ありがとうございました。

最初は、一番の目的はスノーケリングと室戸ボランティアのメンバーに会うことだったけど三日間の最初から最後まで、本当に素敵な時間でした。「楽しい」という気持ちだけでなく、考えたこと、悩んだこともちゃんと忘れずに次につなげていきたいです。ありがとうございました。

今回の研修は座学が中心だと聞いており内心がっかりしていたが、実際はそんなことはなく、とても活動的だったので楽しみながらできた。

コミュニケーションがテーマということもあり、人と人の絆、仲間意識というものの大切さを肌で実感することができた。これからも室戸の事業に参加していきたい。



# 子どもゆめ基金体験の風リレーションシップ事業

## 事業名 趣旨

### 子ども体験遊びリンピック

自然体験や生活体験等の楽しさや達成感を実感してもらうとともに、体験活動推進の機運を全国に高めることを目的として、様々な競技性のある体験活動を実施する。

## 実施期間

平成24年10月20日（土）

## 参加者／定員

99人／定員なし

## 事業の様子

3回目の開催ということで、種目やルールの浸透が見られた。過去の記録を掲示する等、子どもたちの意欲を引き出すようにアプローチした結果、子どもたちが意欲的に対象外種目にもチャレンジする姿が見られ、体験活動の普及に資することができたのではないかと思われる。

室戸くろしお祭りの前夜祭イベントの中心となるよう、競技の見直しも含めて充実させたい。



## 事業名 趣旨

### 室戸くろしお祭り

自然の中での様々な体験活動を通して、交流を深めたり、当施設を多くの方々に知ってもらう

## 実施期間

平成24年10月21日（日）

## 参加者／定員

約3,500人／定員なし

## 事業の様子

本事業は施設開放事業として定着しているイベントで、多くの地域の方たちの協力を得て実施している。当日は天候にも恵まれ、正面広場にはパトカーや消防車・高所作業車の乗車体験などでにぎわう中、トラクターSLの順番を待つこともたちが行列を作り、そのそばでは室戸青少年交流の家ならではのタッチプールをたくさん子どもたちが取り囲んでいた。中に葉にはたくさんのテントが並びそこで高知海洋高校によるマグロの解体・販売や地元の方たちによるアトラクションや販売でにぎわった。中でも地元の保育所のマーチングバンド演奏には大きな拍手が起こり、祭りを盛り上げてくれた。





事業名  
対象  
実施期間

### キッズデイ①～③

園児(4・5歳児)と小学1～2年生(③は小学1～4年生)の児童及びその保護者

①平成24年12月1日(土)～2日(日)1泊2日

②平成25年1月12日(土)～13日(日)1泊2日

③平成25年2月9日(土)～10日(日)1泊2日

参加者/定員  
事業の様子

①103人/100人 ②91人/100人 ③89人/100人

本年度のキッズデイは、①「大自然を感じながらリース作り!」、②「自然だ、おもちゃだ、けんちんだ、親子大集合!」③「エコ体験をしてみようデイ!～うどんも打ちちゃうぜい～」のテーマで実施した。

キッズデイ①では、参加者達がクリスマスリースや壁掛け飾りの材料探しに所内を散策したり、オリジナルキャンドルを作ったりしながら、親子の会話を楽しんだ。夜のキャンドルの集いでは、ゲームで大いに盛り上がった。リースや壁掛け飾り作りでは、真剣なまなざしで、活動に取り組み、出来上がった作品には、大満足の様子であった。

キッズデイ②では、けんちん汁づくりともちつきを行った。けんちん汁では、子どもたちは保護者と一緒に、白菜やネギなど旬の食材を切ることができた。また、もちつきでは、指導員の指示に従いながら、力強くもちをついたり丸めたりしていた。参加した子どもはもちろん、保護者も大いに楽しんでいる姿が印象的であった。最後はもち投げを行い、楽しくもちを拾いあつた。

キッズデイ③では、エコをテーマに身の回りにある材料を使って「入浴剤作り」「石鹸作り」「紙すき体験」を親子で行った。それぞれの活動で、親子が協力しながら作品を作っていた。2日目は、小麦粉からうどん作りに挑戦した。その日の昼食になることから、親子で力を合わせて熱心に取り組んでいた。簡単な手順で美味しくできたことから、早速家でも作ってみようという声が聞かれた。身近な材料を使うことで、今後家庭でも継続して取り組むことができ、親子で協力して行う活動として提案することができた。





事業名  
対象  
実施期間  
参加者／定員  
事業の様子

### 第5回室戸オープン卓球大会（小学生の部）

高知県・徳島県の小学生

平成24年12月8日（土）～9日（日）

180人／定員なし

高知・徳島両県内の小・中学生卓球愛好者の交流を目的に、当施設を会場にして日頃の練習の成果を試しあうとともに、交流を深めた。

県を越えての大会は数が少ないため、参加した子どもたちは毎年この大会を楽しみにしており、続けて参加している選手が多い。今年度から小学生大会のみとなったが、今後も参加者の拡大を図りたい。



事業名  
趣旨

### むろと2000本桜祭り

地元有志が室戸広域公園に植樹した約2,000本の桜を觀賞するとともに、地域の活性化を図る。

平成25年2月24日（日）

約2,000人／定員なし

第5回の開催となり、「日本一早い桜祭り」のキャッチフレーズも浸透してきたように思う。たくさんの方に早咲き品種の桜を觀賞していただけた。また、当施設が提供する「こけ玉作り」と「木のペンダント作り」も好評を得た。

開花時期は天候に大きく左右されるため、開催時期については検討し、更にはたくさんの方々にご来場いただけるよう充実させたい。





# その他事業

## 事業名

中四国地区青少年教育施設連絡協議会職員研修会

## 趣旨

中四国地区の青少年教育施設に勤務する職員が、施設や事業についての広報のあり方について考えるとともに、人の心をつかむ分かりやすい広報のノウハウを身に付ける。また、国立室戸青少年自然の家で行っているカヤックやスノーケリング、室戸岬探勝（室戸ジオパーク見学）等の体験を通して、安全対策について協議し、安全管理意識及び施設職員の資質向上を図る。

## 対象

中国・四国地方の社会教育施設職員

## 実施期間

平成24年9月26日（水）～28日（金）

## 参加者／定員

22名／40名

## 活動プログラム

	9月27日（水）	9月28日（木）	9月29日（金）
AM		選択活動Ⅰ A オーシャンカヤック B 磯観察	演習「人目を引くチラシづくり」
PM	講演「人の心をつかむ広報」 演習「キャッチコピーをつくらう」	選択活動Ⅱ C スノーケリング D 室戸ジオパーク見学	
夜	情報交換会	演習「海の活動 ヒヤリハット」	

## 運営の留意点

中国・四国地方にある社会教育施設のうち、中四国地区青少年教育施設連絡協議会に加盟している31の施設を対象に実施した。国公立の施設や、海や山の活動を中心にした施設など、施設によって様々な特色があるため、研修内容を広報と安全という二点に絞って実施した。

## 事業の成果

広報の研修では、松崎地域計画本舗の松崎了三氏に「人の心をつかむ広報」と題して講演をいただいた。実際の成功例を交えながら、一度行ってみたいと思わせるキャッチコピーやチラシの作り方など、広報のポイントについて学ぶことができた。また、カヤックやスノーケリングなど、当施設の海の活動を体験し、安全面での指導や対策について協議した。同じ社会教育施設の職員同士が意見交換を行うことで、安全面での指導や対策について理解を深めることができた。

## 今後の方向性

本研修は国立の施設が持ち回りで実施しているが、内容については担当施設に任されているのが現状である。また、今回の研修は海の活動を体験してもらうため9月に実施したが、各施設ともに秋の主催事業前ということもあり、参加施設が限られてしまった。開催時期を含め、各施設のニーズを踏まえながら、どのような研修内容に設定していくかが課題である。





## 参加者の感想

広報の講演では、楽しく興味深い内容で刺激になりました。地理的問題や家族の受入れ方など、まだまだ見直すことの多さに気づきました。今後は、自分の施設の受入れ方を見直していきたいと思いました。

様々な施設の方とお話しし、状況を聞くことでたいへん勉強になりました。利用者のために、よりよい研修ができるよう力を尽くすことの大切さと「施設のアピールのために、今どれだけのことをしているか」ということを考えていこうと思いました。

## 事業名

### 四国交流三四郎のつどい

## 対象

四国四県の柔道教室に通う小学生

## 実施期間

平成 24 年 11 月 17 日（土）～18 日（日）

## 参加者／定員

400 人／200 人

## 事業の様子

この大会は、四国四県の子どもたちが一堂に会し、共に競い合う中で親睦を深め、四国の柔道競技のさらなる進展を図ることを目的に開催している。

四国 4 県からの参加があり、参加団体は他県のチームと対戦しながら交流を深めることを楽しみにしている。本年度は、板野町柔道教室 A が優勝をおさめた。大会運営については、例年通り、高知県柔道協会、室戸市少年防犯柔道クラブの保護者の方々等関係各位の協力により、円滑に進行した。



## 事業名

### 軟式野球大会（6年生・5年生）

## 対象

①中国・四国地域の少年野球チーム（小学6年生）

②四国地区の少年野球チーム（小学5年生）

## 実施期間

①平成 24 年 11 月 10 日（土）、12 月 2 日（日）

②平成 24 年 12 月 15 日（土）～12 月 16 日（日）

## 参加者／定員

①約 1,000 人、②約 800 人／定員なし

## 事業の様子

この三大会は、普段あまり交流できない中国・四国地域の小中学生が室戸の地に集い、軟式野球という一つのスポーツを通して、技術の向上と友情の輪を広げる目的で開催している。参加チームからは「プロも使用した素晴らしい球場で、プレーすることができて良かった。」「普段は対戦する事のない地域のチームと試合ができ、刺激になった。」などの感想が寄せられた。選手達の熱気が感じられる意義のある大会となった。





事業名

小学生交流バレーボール大会

- ①第34回土阿交歓小学生バレーボール大会
- ②第8回MAZEに集うちびっ子バレーボール交流会

対象

- ①高知県・徳島県の小学生バレーボールチーム
- ②小学生女子バレーボールチーム

実施期間

- ①平成24年5月12日(土)～5月13日(日)
- ②平成25年3月2日(土)～3月3日(日)

参加者/定員

- ①16チーム320人、②8チーム100人/定員なし

事業の様子

第34回土阿交歓小学生バレーボール大会は、高知県から8チーム、徳島県から7チーム、香川県から1チームの合計16チームが参加してA、Bクラスに分かれて、室戸市内の2会場で大盛況に開催された。選手たちの精一杯のプレーと大きな声に、観客席からも温かい応援が送られていた。

第8回MAZEに集うちびっ子バレーボール交流会は、当施設「つどいの広間」において開催された。この交流会はバレーボール教室も兼ねており、バレーボールを通してスポーツの楽しさを体験することや、バレーボールの普及、及びバレーボール技術の向上を図ることを目的として行われた。どの選手もカー杯プレーし、会場が熱気に包まれていた。





# 管理運営報告

## 【職員の研修・講習等】

○「新任職員研修」 平成 24 年 4 月 9 日～10 日

(新採用職員、交流職員及びその他の職員対象 6 名参加)

・所の概要、実施事業及び利用者受入事業の内容説明、実践を重視した基礎研修

○「救命救急・AED 講習」

平成 24 年 5 月 1 日実施 (全職員対象 11 名参加)

平成 24 年 5 月 15 日実施 ( " 4 名参加)

・消防署職員による講義と実習



○「指導系職員研修Ⅰ」 平成 24 年 4 月 28 日～29 日

・スノーケリング、カヤックの技能と指導方法の習得 (海の活動指導職員対象 9 名参加)

○「指導系職員研修Ⅱ」 平成 24 年 5 月 2 日

・スノーケリングの技能・指導方法及び救命方法の習得 (指導系職員対象 6 名参加)

○「指導系職員研修Ⅲ」 平成 24 年 5 月 6 日

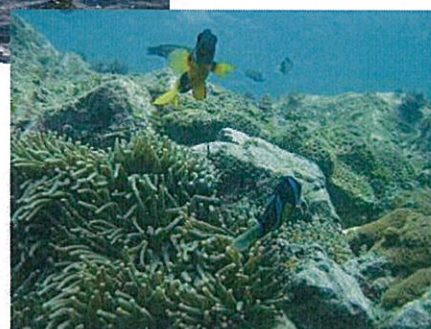
・カヤックの技能と指導方法の習得 (指導系職員対象 3 名参加)

○「指導系職員研修Ⅳ」 平成 24 年 5 月 22 日

・スノーケリングの技能と指導方法の習得 (指導系職員対象 6 名参加)

○「防火訓練」 平成 25 年 3 月 13 日

・火災時の避難誘導と消火の訓練





## 【平成24年度国立室戸青少年自然の家施設業務運営委員会】

**日 時** 平成 25 年 2 月 18 日(月)14:00～16:00

**場 所** 高知県ふくし交流プラザ 2階 高齢者能力開発室

**出席者** 木村(井上代理)、井上、小松、酒井、清水、高橋、中平、西内、平野、宮地(孝)、脇口の各委員 計 11 名  
(敬称略)  
(欠席者:垣内、炭井、副田、宮地(彌)の各委員)

- 日 程**
1. 開会
  2. 所長挨拶
  3. 委員紹介
  4. 職員紹介
  5. 議長選出
  6. 議事
    - (1) 独立行政法人の見直しの動向について
    - (2) 平成 24 年度利用見込みについて
    - (3) 平成 24 年度事業について
    - (4) 平成 25 年度事業計画(案)について
    - (5) 予算状況について
  7. 質疑応答
  8. 所長お礼のことば
  9. 閉会



### 【栄典関係】

当施設研修指導員の久保堯彦氏が、当施設活動プログラムや主催事業実施への貢献、地域の青少年の健全育成への尽力など、社会教育の振興に貢献された功績により、平成 24 年 11 月 13 日に文部科学大臣から社会教育功労者表彰を受賞された。



#### ●久保堯彦氏 略歴

平成 8 年 国立室戸青少年自然の家ボランティア指導員

平成 13 年 独立行政法人国立青少年自然の家国立室戸青少年自然の家ボランティア指導員

平成18年 独立行政法人国立青少年教育振興機構国立室戸青少年自然の家指導員

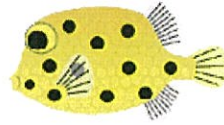
#### ●当施設における主な活動

クラフト活動、野外炊事などの自然体験活動プログラムや、海洋体験活動船「くろしお」の操船、施設開放事業「室戸くろしお祭り」などの主催事業で広範囲にわたり指導





## 利用者の声



私は、自然の家の合宿でいろんな事を学びました。そして一生の思い出になった事なので、自然の家の方に感謝します。

スノーケリングでは、とってもキレイな初めて見る魚たちがいて、海の世界に入っているみたいで楽しかったです。それから、職員さんは私たちを安全にリードしてくれていて、安心して海に入れました。

スコアオリエンテーリングでは、二日間の中で一番「協力」が必要でした。私のチームは道に迷いました。でも、協力して地図を見て行くと、もどれてホッとしました。

二日間の合宿で、協力・絆・仲間の大事さを学びました。

いろんな事、きちょうな経験ができたので、学んだことを生活に全部生かしたいです。

(高知県 小学生 女子)



海の活動で、職員さんが教えてくださったので、楽しい体験ができました。私は、最初道具の使い方が分かりませんでした。だけど、友達や職員さんにしっかり教えてもらったので、道具の使い方が分かりました。バスで海に行く時、私はワクワクしました。友達とペアになっていっしょに泳ぎました。私は最初下を見れていたけど、どんどん深くなっていくたびに下を見れませんでした。友達や職員さんなど、みんなが「下に魚がおるで」と言いました。下を見たら、魚がたくさんいてびっくりしました。きれいななあと思いました。スノーケリングが終わって海から出たら、すごく寒かったです。それでも、私は楽しい一日だったなあと思いました。

(高知県 小学生 女子)



私が一番心に残ったことは、スノーケリングとオーシャンカヤックです。スノーケリングでは、太平洋の海の中の魚などが見れて、とても楽しかったです。オーシャンカヤックでは、バディーの三人で協力して楽しく活動ができたので、とても良かったです。また、海水浴では太平洋の海の波を体感することができて、とても楽しかったです。

私がこの室戸の三泊四日で学んだことは、班で協力し合い、助け合うことです。また、集団行動の中では時間を守り、自分のことよりもみんなのことをゆうせんさせるということも学びました。

地元では、室戸で活動したような海水浴やスノーケリング、オーシャンカヤックはできないけれど、地元でも自然にふれ合っていきたいと思います。

(愛媛県 中学生 女子)



先日は大変お世話になりました。こんなに自然と触れ合ったのは何年ぶりか…(笑)。子供たちにとってはもちろん、親にとってもかけがえのない休日になりました。これも親切に対応してくださった職員の方々のおかげです。本当にありがとうございました。

ほんとにほんとに楽しくて、こんなにリーズナブルでいいのかと思ってしまうほどだったので、周りに自慢します。なので、岡山からの訪問者が若干増えると思いますので覚悟しておいてください(笑)。

これからも健康に気をつけて素晴らしいお仕事を頑張ってください。

(岡山県 家族グループ)





# 広報活動

平成 24 年度も広報活動として様々なイベントにブースを出展し、活動体験と併せて施設のPRを行った。

実施日	イベント名	会場	来場者数
7月15日	ふるさと室戸まつり	海の駅「とろむ」	1,126
11月3日	室戸岬灯台まつり	室戸岬灯台	1,865
11月3日	農学部一日公開	高知大学物部キャンパス	2,770
11月25日	室戸市産業祭	海の駅「とろむ」	3,398
2月3日	春の観光開き	室戸岬	1,607
2月24日	むろと2000本桜祭り	室戸広域公園	2,030
3月3日	室戸わんぱくランド	室戸広域公園	1,313



生きたヤドカリに興味津々



覗き込む子どもたち



おもしろ自転車は低学年に人気



幅広い年齢層から人気の  
「木のペンダント作り」



「早ね早おき朝ごはん」  
運動のキャラクター登場



キャラクターとのふれ合い

ブース出展では、「木のペンダント作り」や「ヤドカリふれあい体験」といった活動が定着してきた。地元である室戸市の子どもでも生きたヤドカリに触れたことのある子は少なく、こうした体験活動の機会を設ける重要性を感じる。

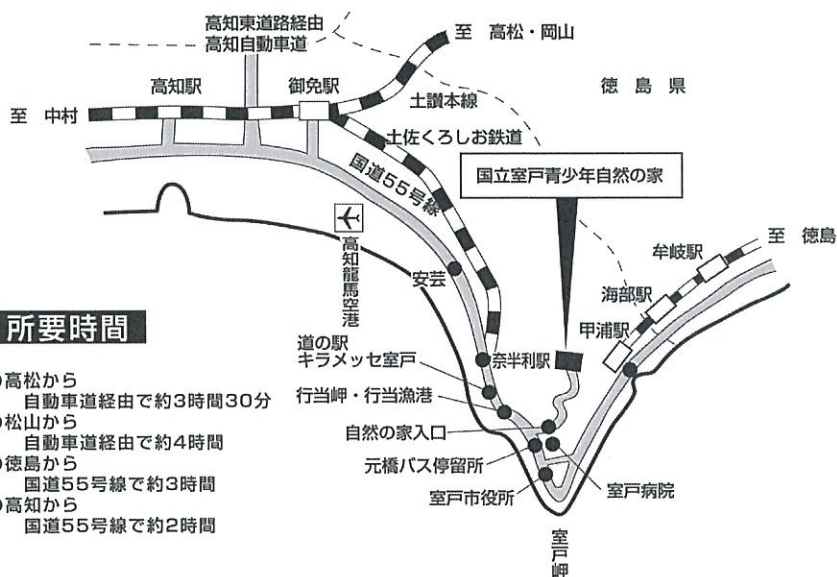
また、今年は機構本部より「早ね早おき朝ごはん」運動のキャラバン隊が来高し、室戸小学校でラジオ体操の番組収録を行った。前日には当施設の「タベのつどい」でキャラクターの着ぐるみを使った運動のPRを行い、子どもたちの注目を集めていたが、今後も同運動とどういった形の連携が取れるのか検討していきたい。

他にも、高知大学で行われた「課外活動団体リーダーシップセミナー」において時間を確保していただき、200人近い学生に対して施設利用を直接アピールした。同大学の各種サークルやゼミでの利用は毎年1,500人前後に上り、今後もこうした機会を確保することで稼働率向上に繋げ、また、同大学の課外活動の振興にも貢献できれば幸いである。

今後も様々な手法でメディアも活用しながら、積極的な広報に努めたい。



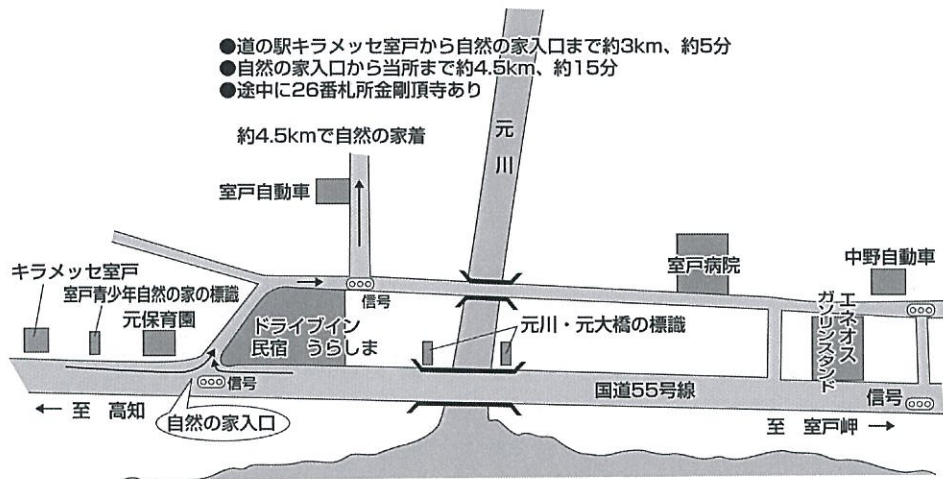
## 交通案内



### 所要時間

- 高松から  
自動車道経由で約3時間30分
- 松山から  
自動車道経由で約4時間
- 徳島から  
国道55号線で約3時間
- 高知から  
国道55号線で約2時間

## 自然の家への入り口付近詳細図



独立行政法人国立青少年教育振興機構

## 国立室戸青少年自然の家

TEL. 0887-23-2311 (代)

FAX. 0887-23-2484

〒781-7107 高知県室戸市元乙1721

E-MAIL muroto@niye.go.jp

HP <http://muroto.niye.go.jp/>

